

企業と大学の距離を縮めるには

いと思いますが、これが垣根になり得ることもあります。いかがでしょうか。

村上



この問題は、大学からの提案ではなく、企業サイドから提案が必要だと思います。明確な線引きは難しいと思いますが、研

究協会の会員企業間で協議を行い、ガイドラインは設けるべきでしょう。分析で民間の測定会社でもできるようなことは、そこでやるべき。タダだからといって大学を使うのは意に反しているのではないのでしょうか。

松岡

おっしゃる通りですね。しかし、単なる測定などのお手伝いでも良いと思う部分もあります。企業のエンジニアと触れながら研究を進めることは、学生にとっていい経験になります。しかし、知識までと言われると学生には難しいと思います。

河本

人手としては学生に任せつつも、教授が知識をしっかりとフォローする体制が必要なのではないでしょうか。

松岡

さて、様々な角度から大学と企業についてお話いただきましたが、最後に地域発展への企業と大学の役割ということをお話頂きたいと思ひます。

村上

私は大学の企業との連携・役割は3つあると思います。1つ目は「研究の提供」、2つ目は社会人の大学への受入れや、今行っているMO T講義なども含めた「教育と施設の提供」、3つ目はやはり「学生の活性化」です。企業はやはりやる気のある活力を持った人材が欲しいのです。一概に偏差値が高い学生が良い人材とは言えず、社会に出るということは、いきなり国際競争社会

へ出るということであり、何事にもチャレンジしていく気概を持った人材育成が必要になってきます。六当は社会へ出て企業が教育すべきなのですが、今は即戦力が必要となってきています。知識にプラスして現状を打ち破る行動力が必要なのです。つまり、現状を良しとせず、高い目標に向かって非常識に挑戦できる人材が必要です。このような人材育成には産学が連携してベンチャーキングし、目標を設定して活動すべきであり、「極める人材の育成」が必要なのではないでしょうか。

河本

企業人の育成として行われているMO T講義などは私も受けたいくらいです。しかし、20代後半から30代の社員は仕事の中心になっており、1年間毎週大学に行くというのは非常に難しい。ただ、最先端の技術には触れて欲しいと思います。イブニングサロンというような形で定期的に開催されるのであれば、ぜひ社員を出してみたいと思います。当社も研究開発への人材投資はまだまだ少ないと感じており、将来的な技術革新を行うためには、企業人の育成と教育は重要な課題であると思ひます。

松岡

私の個人的な意見ですが、製造会社である限り、なんらかの独自の技術を持っておられるはずで、その技術を伝承し、飛躍させ改革していかないと日本の技術は停滞していきます。大学のもつシーズを上手く及取して役立てて欲しいと考えております。

村上

やはり、ものづくり・人づくりの両面で、今後とも更に大学との連携は必要ですね。

釣谷

当社も再教育による人づくりは重視しております。しかし、個人の形式的なキャリアアップのためにやってもらっては困る。テーマが当社の課題にヒットしていれば研究員としての派遣はOKです。これにはいくらお金がかか

っても良い。

また、地域発展を私は直接的課題とは考えておりません。地域は人と土地。それ以外は全世界を見ています。事実、製造業は一発当てれば世界的なものになれる。世界に羽ばたく事が企業の役割であり、それが結果として地域発展になるのです。

村上

最近CSRということがクローズアップされており、これは「企業の社会的責任」ということであり、重要視されています。CSRは一般的に、経済的責任・法的責任・倫理的責任・社会貢献責任の1つの責任のことを指します。経済的責任においては、産学連携により、技術・商品の差別化を図ることにより、企業は利益を出し、税金を払うと共に、雇用を創出し給与を支払うことで地域社会・産業界に還元され、社会発展につながっていると思います。経済的責任に加えて、法を遵守するといった法的責任も重要です。また、人権尊重といった倫理面も必要ですし、ボランティア活動などの社会貢献も期待されています。

企業の社会的責任を果たし、企業活動を健全に行うことがそれら全てを満足させることになりまますし、結果としてそれが社会発展になっているのではないかと思います。

松岡

やはり地域の発展に対してはいろいろな問題や課題があるとは思ひますが、グローバルに考えて企業活動を行っている皆様とうまく舵を取り、付き合っていくことが大学の役割なのかもしれません。

本当にいろいろなお話を頂き、ありがとうございました。今後さらに皆様との連携を強めていきたいと思ひますのでよろしくお願ひ致します。



共同研究 企業紹介

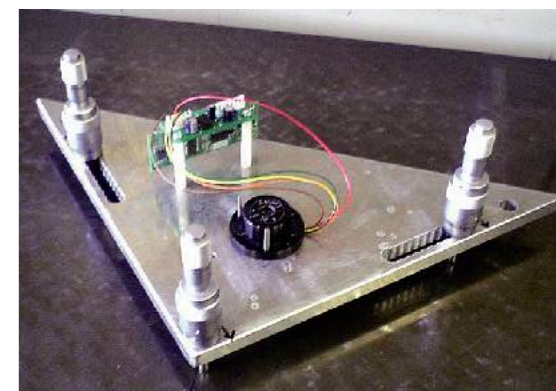
富山検査株式会社

富山市上野新町

非破壊検査・計測・環境計量・診断

・計測機器レンタル・計測機器販売

<http://www.tomiken.co.jp/>



1 研究協力会を知ったきっかけ

連携センターの発足準備段階から大学に出入りしていたので、研究協力会については大学関係者の方から直接聞きました。

2 公開授業の聴講がお付き合いのきっかけ

公開授業の聴講を機に出会った野村先生へ懸案の課題を相談したことがきっかけです。お伺いした際に卒業研究公募(初回)のことを教えていただき、応募したところ、採択・実施されることになりました。その過程で幸い特許出願にもつながり、さらに共同研究の形で商品化を目指すことになりました。別件で共同研究室へ出入りさせていただいていたこともこの共同研究の伏線となったように思ひます。

3 産学の複眼的視野を活かす

納期、成果のレベルを決めて、達成することへのプレッシャーを、先生も、私たち達自身も感じながら取り組める共同研究という厳しい形をとることで、相互の連携がさらに強化され、社内の活性化も図れているのではないかと感じています。

今後は商品開発とそのプロセスを産学の複眼的視野で進めることで新たな方向性と展開が見えてくるのではないかと期待しています。

4 今後の進め方

取り組み中の共同研究「面逐次法による平面度測定」については、信頼性の評価・検証、操作性・デザインの工夫、新用途の開拓などまだまだ取り組まなければならないことがあります。共同研究の範囲を超えない注意が必要で

すが、うまく分担し「産学連携による商品化の進め方のプロセスモデル」が作り上げられるよう、取り組んでいけたらと思っています。

また、現在のJIS規格「精密定盤」には従来の方法しか示されていませんので、その現規格に今回の取り組みを反映できるように、標準化に向けた活動も行っていけたらと考えています。

共同研究の成功のポイントは、企業の方の関わりが多さだと思います。学生にとっても企業人と一緒に進める

〈共同研究者〉
講師 神谷 教授 野村

ことで良い緊張感が生まれます。製品化で一緒に研究を進め、産業界の発展に寄与していきたいと考えております。

研究協力会 会員企業紹介

立山化成株式会社

射水市大江
医薬品・治療薬の原体及び中間体、化粧品および健康食品素材、工業薬品、特殊写真剤、その他受託製造品目
<http://www.tateyamakasei.com>



1953年創業の当社は、ファインケミカルのエキスパートとして、医薬品およびその中間体の開発、そして写真薬、電子材料等の機能性有機化合物の開発を長年にわたり手掛けてきました。その間に培われた有機合成技術は当社の財産となっています。GMPやISOを遵守し、開発段階の小規模生産から商業規模生産に移行するプロセス開発は、国内外の医薬、ファインケミカル業界で高い評価を受けています。また最近では美容および健康食品の開発も手掛けるようになり、化粧品や食品業界との取引関係も急速に拡大いたしております。小さいながらも、グローバルな展開、創造的で、そしてスピード感のあることを心がけ、創造実践の精神でお客様とともに発展する事を使命と考えている会社です。